

参考和訳

Morgan Stanley

モルガン・スタンレー

2015 年度第 1 四半期決算を発表

- 純営業収益は 99 億ドル、継続事業による希薄化調整後の 1 株当たり利益は 1.18 ドル
- DVA¹による影響を除いたベースでは、純営業収益は 98 億ドル、継続事業による希薄化調整後の 1 株当たり利益は 1.14 ドル^{2,3,4}
- 株式のセールス&トレーディングの業績は堅調、債券・コモディティの業績は改善; 投資銀行業務では世界の IPO 引受高、世界の株式引受高、世界の公表ベースの M&A 取扱高で上位 3 位内⁵
- ウェルス・マネジメント業務の税引前利益率は 22%⁶; ファイナンシャル・アドバイザー 1 人当たりの顧客預り資産と収入は過去最高を記録
- 継続事業による ROE は 14.2%、DVA と一過性の税効果を除いたベースでは 10.1%^{2,7}
- 四半期ベースの配当は 50%増の 1 株当たり 0.15 ドル

[ニューヨーク、2015 年 4 月 20 日] モルガン・スタンレー (NYSE: MS、以下、同社)は本日、2015 年度第 1 四半期 (2015 年 1 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日) の純営業収益が前年同期の 90 億ドルに対し、99 億ドルになったと発表した。今四半期の同社に帰属する継続事業による利益は 24 億ドル、希薄化調整後 1 株当たり利益は 1.18 ドル⁸であり、これに対し、前年同期の同社に帰属する継続事業による利益は 15 億ドル、希薄化調整後 1 株当たり利益は 0.74 ドル⁸だった。今四半期の業績には、主に米国外の利益を当初予想を下回るコストで本国に送金したことに伴う一過性の正味税効果 5 億 6,400 万ドル(希薄化調整後 1 株当たり 0.29 ドル)を含んでいる⁹。

DVA による影響を除くと、今四半期の純営業収益は前年同期の 89 億ドルに対し 98 億ドルだった^{1,4}。同社に帰属する継続事業による利益は 23 億ドル(希薄化調整後 1 株当たり 1.14 ドル)であり、これに対し、前年同期の同社に帰属する継続事業による利益は 14 億ドル(希薄化調整後 1 株当たり 0.70 ドル)だった^{3,4}。

人件費は、主に増収により、前年同期の 43 億ドルから 45 億ドルに増加した。人件費以外の費用は、訴訟費用と取扱高増加に伴う費用の増加を受けて、前年同期の 23 億ドルから 25 億ドルに増加した。

今四半期の同社に帰属する非継続事業を含む純利益は 24 億ドル、希薄化調整後 1 株当たり 1.18 ドルであり⁸、これに対し、2014 年度第 1 四半期は 15 億ドル、希薄化調整後 1 株当たり 0.74 ドルだった⁸。

今四半期の年率換算した継続事業による平均普通株主資本利益率は 14.2%、DVA と一過性の正味税効果を除いたベースで 10.1%だった⁷。

モルガン・スタンレーの業績概要 (単位は 100 万ドル)				
	公表ベース		DVA による影響を除く ⁴	
	純営業収益	継続事業による損益	純営業収益	継続事業による損益
2015 年度 第 1 四半期	\$9,907	\$2,399	\$9,782	\$2,319
2014 年度 第 4 四半期 ^(a)	\$7,764	\$(1,622)	\$7,541	\$(1,767)
2014 年度 第 1 四半期	\$8,996	\$1,506	\$8,870	\$1,431

- a) 2014 年度第 4 四半期決算には以下の複数の重要な項目を含んでいた: 過去の住宅ローン関連問題に伴う 31 億ドルの訴訟費用; 法人再編に関連する約 14 億ドルの一過性の正味税効果; 裁量インセンティブ報酬繰延の変更に伴う約 11 億ドルの人件費調整; 資金調達評価調整(FVA)を導入したこと起因する約 4 億 6,800 万ドルの純営業収益の減少。

業績のハイライト

- 法人・機関投資家向け証券業務部門の純営業収益は、DVA の影響を除いたベースで 53 億ドルとなった¹⁰。第 1 四半期の純営業収益は、すべての商品と地域における株式のセールス&トレーディングの堅調な業績、債券・コモディティのセールス&トレーディングにおける顧客活動の活発化を受けた業績改善、および投資銀行業務の堅固な業績を反映している。
- ウェルス・マネジメント業務の純営業収益は 38 億ドル、税引前利益率は 22%だった⁶。今四半期の手数料ベースの資産流入額は 133 億ドル、総顧客預り資産は今四半期末時点で 2 兆ドルだった。
- 資産運用業務の純営業収益は 6 億 6,900 万ドル、顧客預り・管理資産は 4,060 億ドルだった。

モルガン・スタンレー会長兼最高経営責任者(CEO)であるジェームス P. ゴーマンは次のように述べている。「今期はほとんどの分野で業績が改善し、ここ数年で最も堅調な四半期となった。これは、慎重なリスク・プロファイルと規律あるコスト管理を維持しつつ、成長基盤を構築するために当社が継続して取り組んでいる戦略によるものである。」

法人・機関投資家向け証券業務の業績概要 (単位は 100 万ドル)				
	公表ベース		DVA による影響を除く ¹⁰	
	純営業収益	税引前損益	純営業収益	税引前損益
2015 年度				
第 1 四半期	\$5,458	\$1,813	\$5,333	\$1,688
2014 年度				
第 4 四半期 ^(a)	\$3,430	\$(3,661)	\$3,207	\$(3,884)
2014 年度				
第 1 四半期	\$4,677	\$1,416	\$4,551	\$1,290

- a) 2014 年度第 4 四半期決算には以下の複数の重要な項目を含んでいた：過去の住宅ローン関連問題に伴う 31 億ドルの訴訟費用；裁量インセンティブ報酬繰延の変更に伴う約 9 億ドルの人件費調整；資金調達評価調整(FVA)を導入したこと起因する約 4 億 6,800 万ドルの純営業収益の減少。

法人・機関投資家向け証券業務

法人・機関投資家向け証券業務部門の継続事業による税引前利益は、2014 年度第 1 四半期の 14 億ドルに対し、18 億ドルとなった。今四半期の純営業収益は前年同期の 47 億ドルに対し、55 億ドルだった。DVA を除いたベースでは、前年同期の 46 億ドルに対し、53 億ドルだった^{1,10}。以下のセールス&トレーディング業務に関する議論は DVA を除いたベースである。

- ・ アドバイザリー業務の収益は、M&A 活動の活発化を受けて、前年同期の 3 億 3,600 万ドルから 4 億 7,100 万ドルに増加した。株式引受業務の収益は、IPO 引受高の減少を反映して前年同期の 3 億 1,500 万ドルから 3 億 700 万ドルに減少した。債券引受業務の収益は、主にローン取扱高の減少を受けて、前年同期の 4 億 8,500 万ドルから 3 億 9,500 万ドルに減少した。
- ・ 株式のセールス&トレーディング業務の純営業収益は、顧客活動の活発化に伴いすべての商品と地域において堅調な業績を上げ、前年同期の 17 億ドルから 23 億ドルに増加した¹¹。
- ・ 債券・コモディティのセールス&トレーディング業務の純営業収益は、前年同期の 17 億ドルから 19 億ドルに増加した。今四半期の業績は、クレジット商品の減収で一部相殺されたものの、コモディティの堅固な業績のほか、金利と為替商品の増収を反映している¹¹。
- ・ その他のセールス&トレーディング業務の純損益は、前年同期の 2 億 4,400 万ドルの損失に対し、2 億 1,300 万ドルの損失となった。これは主に同社の長期債務に関連する費用の減少を反映している。
- ・ その他の収益は、前年同期の 1 億 9,100 万ドルに対し 9,000 万ドルとなった。前年同期の収益は CanTerm¹² の売却益を反映していた。
- ・ 今四半期の人件費は、増収を背景に前年同期の 19 億ドルから 20 億ドルに増加した。今四半期の人件費以外の費用は、訴訟費用と取扱高増加に伴う費用の増加を受けて、前年同期の 14 億ドルから 16 億ドルに増加した。
- ・ 95%の信頼区間で測った同社のトレーディングの平均 VaR(バリュー・アット・リスク)は、今四半期 4,700 万ドルと、2014 年度第 4 四半期から変わらなかった。2014 年度第 1 四半期の VaR は 5,000 万ドルだった¹³。

ウェルス・マネジメント業務の業績概要 (単位は 100 万ドル)		
	純営業収益	税引前損益
2015 年度 第 1 四半期	\$3,834	\$855
2014 年度 第 4 四半期	\$3,804	\$736
2014 年度 第 1 四半期	\$3,609	\$686

ウェルス・マネジメント業務

ウェルス・マネジメント業務の継続事業による税引前利益は、前年同期の 6 億 8,600 万ドルに対し、8 億 5,500 万ドルとなった。今四半期の税引前利益率は 22%だった⁶。今四半期の純営業収益は、前年同期の 36 億ドルに対し 38 億ドルとなった。

- ・ 資産運用手数料収入は、手数料ベース口座の良好な資金流入と市場の上昇を反映して、前年同期の 20 億ドルから 21 億ドルに増加した。
- ・ トランザクション収益¹⁴ は、主にトレーディング収入および手数料収入の減少を反映して、前年同期の 9 億 9,600 万ドルから 9 億 5,000 万ドルに減少した。
- ・ 純金利収入は、預金および融資残高の伸びを受けて、前年同期の 5 億 3,800 万ドルから 6 億 8,900 万ドルに増加した。
- ・ 今四半期の人件費は 22 億ドル、人件費以外の費用は 7 億 5,400 万ドルとなり、いずれも前年同期比ほぼ横ばいだった。
- ・ 総顧客預り資産は、今四半期末時点で 2 兆ドルとなった。手数料ベース口座の顧客預り資産は前年同期比 11%増の 8,030 億ドルとなった。今四半期の手数料ベース口座の資金流入は 133 億ドルだった。
- ・ ウェルス・マネジメント事業に在籍するファイナンシャル・アドバイザーは 1 万 5,915 人であり、1 人当たり年換算収入の平均は 95 万 9,000 ドルだった。

資産運用業務の業績概要 (単位は 100 万ドル)		
	純営業収益	税引前損益
2015 年度		
第 1 四半期	\$669	\$187
2014 年度		
第 4 四半期	\$588	\$(6)
2014 年度		
第 1 四半期	\$752	\$268

資産運用業務

資産運用業務の継続事業による税引前利益は、前年同期の 2 億 6,800 万ドルに対し、1 億 8,700 万ドルとなった¹⁵。

- ・ 純営業収益は前年同期の 7 億 5,200 万ドルから 6 億 6,900 万ドルに減少した。これは主に、マーチャント・バンキング業務および不動産投資業務における投資利益の減少を反映している¹⁶。今四半期は、同社がスポンサーとなっている不動産ファンドに関連して、2014 年度第 2 四半期に一部の法人が連結対象外となったことに伴う減収も反映している¹⁷。
- ・ 今四半期の人件費は、前年同期の 2 億 8,600 万ドルから 2 億 7,300 万ドルに減少した。人件費以外の費用は、前年同期の 1 億 9,800 万ドルから 2 億 900 万ドルに増加した。
- ・ 2015 年 3 月 31 日時点の顧客預り・管理資産は、主に良好な資産流入を反映して、前年同期の 3,860 億ドルから 4,060 億ドルに増加した。今四半期の同業務への純流入額は 13 億ドルとなった。

資本について

2015 年 3 月 31 日現在、同社の普通株等 Tier1 リスクベース自己資本比率は約 13.1%、Tier1 リスクベース自己資本比率は約 14.7%である。同社の規制上の自己資本比率は「資本最低水準」に準拠するため、適用可能な経過措置を考慮して、米国バーゼル 3 の先進的手法と標準的手法に基づき算出した比率のうち低い方を採用している。2015 年 3 月 31 日現在の資本最低水準は、米国バーゼル 3 の先進的手法を反映している¹⁸。

2015 年 3 月 31 日時点で、発行済み株式数およそ 20 億株に基づく普通株式 1 株当たり簿価と有形資産の簿価は、それぞれ 33.80ドル、28.91ドルである¹⁹。

その他の事項

今四半期に、同社は一過性の正味税効果 5 億 6,400 万ドルを計上した。これは主に英国にある法人組織を簡素化するための内部的な再編を受けて、米国外の利益の本国送金コストが当初の見積もりを下回ったことに関連している。今四半期の継続事業による実効税率は 13.6%であり、一過性の正味税効果を除くと 33.3%だった²⁰。

今四半期に同社は、自社の普通株式を約 2 億 5,000 万ドル(およそ 700 万株)買い戻した。同社は、2015 年度第 2 四半期から 2016 年度第 2 四半期末までの間に、普通株式を最大で 31 億ドル買い戻すと発表した。

同社は四半期ベースの配当を 1 株当たり 0.10ドルから同 0.15ドルに増額した。配当は 2015 年 4 月 30 日時点の普通株主に対し、2015 年 5 月 15 日付けで支払われる。

モルガン・スタンレーは、投資銀行、証券、資産運用、ウェルス・マネジメント事業において多岐にわたるサービスを提供する世界有数の総合金融サービス企業である。世界 43 カ国以上のオフィスを通じて、法人、政府、機関投資家、個人に質の高い金融商品およびサービスを提供している。同社に関する詳細についてはwww.morganstanley.comをご参照ください。

決算概要は添付資料を参照。財務、統計、事業関連の追加情報、事業およびセグメント動向は財務の補足説明書(Financial Supplement)に掲載されている。決算リリースと財務の補足説明書は同社ウェブ・サイト(www.morganstanley.com)の Investor Relations のセクションでも公開している。

###

This earnings release contains forward-looking statements. Readers are cautioned not to place undue reliance on forward-looking statements, which speak only as of the date on which they are made and which reflect management's current estimates, projections, expectations or beliefs and which are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially. For a discussion of additional risks and uncertainties that may affect the future results of the Company, please see "Forward-Looking Statements" immediately preceding Part I, Item 1, "Competition" and "Supervision and Regulation" in Part I, Item 1, "Risk Factors" in Part I, Item 1A, "Legal Proceedings" in Part I, Item 3, "Management's Discussion and Analysis of Financial Condition and Results of Operations" in Part II, Item 7 and "Quantitative and Qualitative Disclosures about Market Risk" in Part II, Item 7A in the Company's Annual Report on Form 10-K for the year ended December 31, 2014 and other items throughout the Form 10-K and the Company's Current Reports on Form 8-K, including any amendments thereto.

¹ クレジット・スプレッドの変動とその他クレジット要因に起因するモルガン・スタンレーの長期債と短期債の一部のフェアバリューの変化を示す(債務評価調整額(DVA))。

² モルガン・スタンレーは、決算発表、決算電話会議、財務諸表の表示などで一定の「非 GAAP 財務指標」を開示する場合がある。ここで「GAAP」とは米国の一般会計原則を意味する。証券取引委員会(SEC)は「非 GAAP 財務指標」を GAAP に準拠して算出、表示された最も直接的に比較可能な指標から金額を実質的に除外または含めた調整の対象となる過去または将来の業績、財政状態、またはキャッシュフローの数値尺度と定義する。モルガン・スタンレーが公表している非 GAAP 財務指標は、同社の財務状態と業績の透明性を高めるため、またその評価を行う代替的な方法を投資家に提供する追加情報として提示されている。こうした指標は GAAP に準拠しておらず、GAAP に置き換わるものではなく、他社が利用している非 GAAP 財務指標とは異なるか、一致しない場合がある。同社が非 GAAP 財務指標に言及する際には常に、GAAP に準拠して算出、表示される最も直接的に比較可能な財務指標も一般的に提示するとともに、当社が参照する非 GAAP 財務指標とそれに見合う GAAP 財務指標の差異も提示する。

³ DVA を除く希薄化調整後 1 株当たり損益は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効と当社が判断している非 GAAP 財務指標である。DVA の除外は、その影響がプラスかマイナスかに関わらず、クレジット・スプレッドとその他クレジット要因の変動のみに起因するモルガン・スタンレーの債務に関連する収益を区別するためである。継続事業における同社の普通株主に帰属する希薄化調整後 1 株当たり損益と平均希薄化株式数の非 GAAP ベースから GAAP ベースへの調整は以下の通りである(株式数と DVA の単位は百万)。

	今四半期	前年同期
継続事業による希薄化調整後1株当たり損益－非GAAPベース	\$1.14	\$0.70
DVAによる影響	\$0.04	\$0.04
継続事業による希薄化調整後1株当たり損益－GAAPベース	\$1.18	\$0.74
平均希薄化後株式数－非GAAPベース	1,963	1,969
DVAによる影響	0	0
平均希薄化後株式数－GAAP ベース	1,963	1,969

⁴ DVA を除いたモルガン・スタンレーに帰属する継続事業による純営業収益と損益は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効な指標と当社が判断している非 GAAP ベースの財務指標である。非 GAAP ベースから GAAP ベースへの同社に帰属する継続事業による純営業収益と損益の調整は以下の通りである(金額の単位は百万ドル)。

	今四半期	14年度第4四半期	前年同期
同社に帰属する純営業収益－非GAAPベース	\$9,782	\$7,541	\$8,870
DVAによる影響	\$125	\$223	\$126
同社に帰属する純営業収益－GAAP ベース	\$9,907	\$7,764	\$8,996
同社に帰属する損益－非GAAPベース	\$2,319	\$(1,767)	\$1,431
DVAによる影響	\$80	\$145	\$75
同社に帰属する損益－GAAP ベース	\$2,399	\$(1,622)	\$1,506

⁵ 出典:トムソン・ロイター(2015年4月1日時点)、2015年1月1日－2015年3月31日。

⁶ 税引前利益率は、投資家が業績を評価する際の有効な指標であると同社が考えている非 GAAP 財務指標である。税引前利益率は税引前の継続事業による損益を純営業収益で除いたものである。

⁷ 年換算した継続事業による平均普通株主資本利益率(ROE)と、DVA および一過性の正味税効果を除いたベースの ROE は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効な指標と当社が判断している

非 GAAP ベースの財務指標である。ROE の計算は、同社に帰属する継続事業による利益から優先配当を控除したものを平均普通株主資本に対する比率とする。DVA および一過性の正味税効果を除いたベースの ROE を導き出すためには、分子と分母からこうした項目を除外する。継続事業による ROE から、DVA および一過性の正味税効果を除いたベースの継続事業による ROE への調整は以下の通りである。

	今四半期
DVA と一過性の正味税効果を除いた継続事業による ROE	10.1%
DVA の影響	0.7%
一過性の税効果	3.4%
継続事業による ROE	14.2%

⁸ 1 株当たり利益の計算に関連して、2015 年度第 1 四半期は約 8,000 万ドルの優先配当とその他調整額を含み、2014 年度第 1 四半期は約 5,600 万ドルを含んでいた。1 株当たり利益の算出方法に関しては、本リリースに付随するモルガン・スタンレーの財務の補足説明書 3 ページを参照されたい。

⁹ 継続事業による希薄化調整後 1 株当たり利益への影響は、一過性の正味税効果を平均希薄化後発行済み株式数で除したものである。

¹⁰ DVA を除いた法人・機関投資家向け証券業務の純営業収益と税引前損益は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効な指標と同社が判断している非 GAAP ベースの財務指標である。非 GAAP ベースから GAAP ベースへの純営業収益と税引前損益の調整は以下の通りである(金額の単位は百万ドル)。

	今四半期	14年度第4四半期	前年同期
純営業収益－非GAAPベース	\$5,333	\$3,207	\$4,551
DVAによる影響	\$125	\$223	\$126
純営業収益－GAAP ベース	\$5,458	\$3,430	\$4,677
税引前損益－非GAAPベース	\$1,688	\$(3,884)	\$1,290
DVAによる影響	\$125	\$223	\$126
税引前損益－GAAP ベース	\$1,813	\$(3,661)	\$1,416

¹¹ 債券・コモディティ(FIC)および株式のセールス&トレーディングの純営業収益(DVA を除く)を含むセールス&トレーディングの純営業収益は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効と同社が判断している非 GAAP ベースの財務指標である。FIC および株式のセールス&トレーディングの純営業収益を含むセールス&トレーディングの非 GAAP ベースから GAAP ベースへの調整は以下の通りである(金額の単位は百万ドル)。

	今四半期	前年同期
セールス&トレーディング－非 GAAP ベース	\$3,958	\$3,115
DVAによる影響	\$125	\$126
セールス&トレーディング－GAAPベース	\$4,083	\$3,241
FIC のセールス&トレーディング－非 GAAP ベース	\$1,903	\$1,654
DVAによる影響	\$100	\$76
FIC のセールス&トレーディング－GAAP ベース	\$2,003	\$1,730
株式のセールス&トレーディング－非 GAAP ベース	\$2,268	\$1,705
DVAによる影響	\$25	\$50
株式のセールス&トレーディング－GAAP ベース	\$2,293	\$1,755

¹² 「CanTerm」は CanTerm Canadian Terminals Inc.を指す。

¹³ VaR は、ポートフォリオが 1 日当たり一定の場合、同社のトレーディングポジションにおいて 100 営業日当たりで平均 5 倍以上を超えないと予想される損失額である。VaR の計算に関する詳細および同社の VaR 手法の限界については、モルガン・スタンレーの 2014 年度のフォーム 10-K・アニュアルレポートの第 2 部、第 7 項 A「Quantitative and Qualitative Disclosures about Market Risk」に開示されている。VaR の情報に関しては、本リリースに付随するモルガン・スタンレーの財務の補足説明書 7 ページを参照されたい。

¹⁴ トランザクション収益は、投資銀行業務、トレーディングおよび手数料収入を含む。

¹⁵ 2015 年度第 1 四半期および 2014 年度第 1 四半期決算は、同社の連結対象である一部の不動産ファンドによる投資に関連する税引前利益のそれぞれ 1,400 万ドルと 5,400 万ドルを含む。これらのファンドのリミテッドパートナーシップ持分は、本リリースに付随する同社の財務の補足説明書 10 ページの非償還非支配持分に帰属する純利益/損失に掲載されている。

¹⁶ 今四半期の純営業収益は、同社の連結対象である一部の不動産ファンドによる投資に関連する利益 1,400 万ドルを含む(前年同期は 5,400 万ドル)。

¹⁷ 2014 年 4 月 1 日にモルガン・スタンレーは、同社がスポンサーとなっている不動産ファンドに関連する 20 億ドル程度の資産を連結対象から外した。

¹⁸ 同社は先進的手法を採用する金融機関として、リスクベースの自己資本比率の算出に当たって、(i) クレジットリスク加重資産(「RWA」)とマーケット RWA を算出する標準的手法、ならびに、(ii) クレジット RWA を算出する内部格付けに基づく先進的手法、オペレーショナル RWA を算出する先進的手法、およびバーゼル 3 に基づき算出するマーケット RWA 用の先進的手法、の両方を用いることが求められる。金融規制改革法(ドットフランク法)の条項を導入するために、米国のバーゼル 3 では、同社のように規制当局から並行期間を終了することを承認された先進的手法を採用する金融機関は、恒久的な「資本最低水準」に従う。2014 暦年は資本最低水準を受け、同社の自己資本比率は先進的手法、もしくは「バーゼル 2.5」として知られる現在の市場リスク規則で補完した米国バーゼル 1 に基づく規則に従って算出した比率のうち、低い方を採用した。2015 年 1 月 1 日以降、資本最低水準は、適用可能な経過措置を考慮して、米国のバーゼル 3 に基づく先進的手法もしくは標準的手法に基づき算出した自己資本比率のうち、低い方となる。2015 年度第 1 四半期の同社の資本最低水準は先進的手法を反映している。この算出は 2015 年 4 月 20 日(本リリース発表日)時点の概算値であり、2015 年 3 月 31 日を期末とする同社四半期報告書 Form10-Q で修正される可能性がある。米国バーゼル 3 最終規則が段階的に導入されるため、同社のリスクベースの自己資本比率の算出方法は 2022 年にかけて変わることになる。同社の資本は規制上の自己資本要件のほか、内部成長、買収、その他の業務ニーズに必要な資本を考慮に入れている。

¹⁹ 有形普通株式自己資本と普通株式 1 株当たり有形資産の簿価は、自己資本比率の有効な指標と同社が判断している非 GAAP 財務指標である。有形普通株式自己資本は、普通株式からのれん代と無形資産(許容されるモーゲージ・サービシング権を除く)を控除したものに等しい。普通株式 1 株当たり有形資産の簿価は、有形普通株式自己資本を期末の発行済み普通株式数で除したものである。

²⁰ 一過性の正味税効果を除いた継続事業による実効税率は、投資家が期間ごとの業績をより良く比較するために有効な指標と同社が判断している非 GAAP 財務指標である。非 GAAP ベースから GAAP ベースへ継続事業による実効税率の調整は以下の通りである。

	今四半期
実効税率－非 GAAP ベース	33.3%
一過性の税効果	(19.7%)
実効税率－GAAP ベース	13.6%